

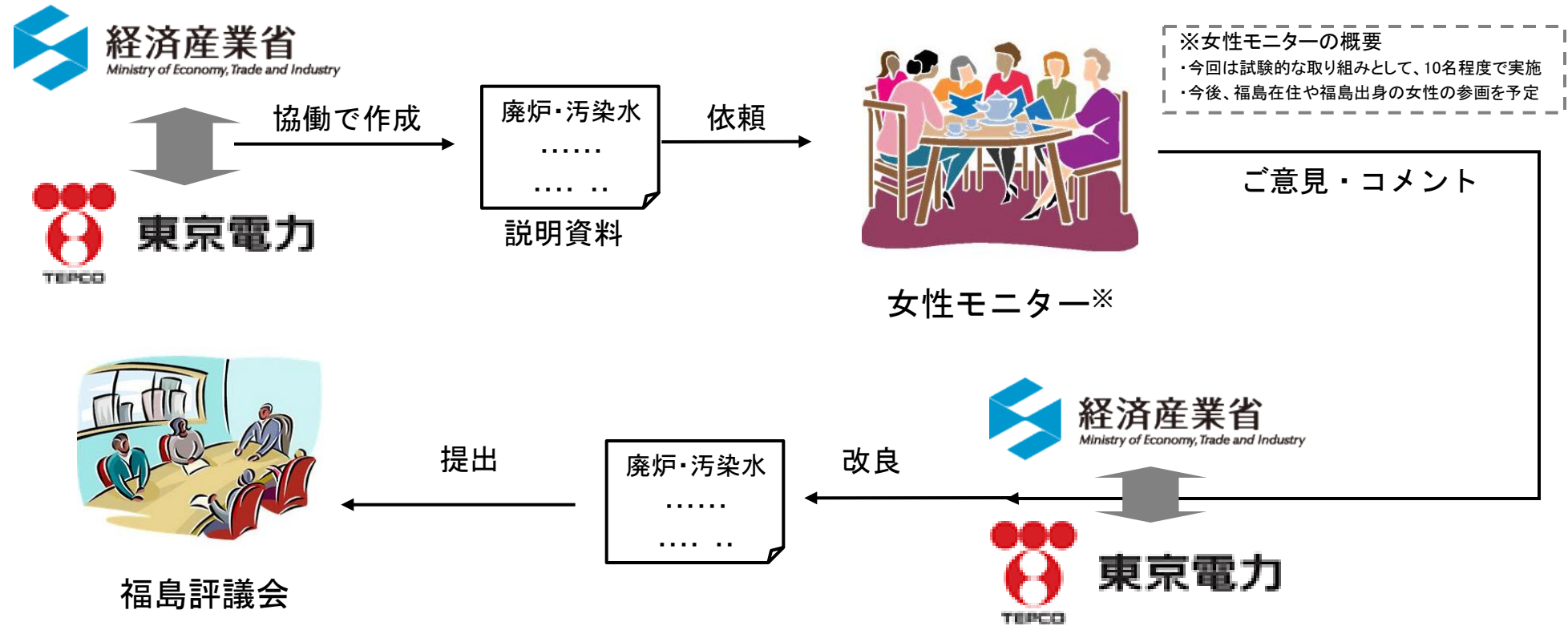
<目次>

【取組み①】女性の視点を活かした分かりやすい情報発信	・・・P1
(参考)女性モニター調査結果	・・・P2-3
【取組み②】次世代を担う子どもたちに向けた情報発信	・・・P4
【取組み③】事故・トラブル等発生時における迅速・的確な公表	・・・P5
【取組み④】海外への情報発信力の強化	・・・P6
【取組み⑤】作業員とのコミュニケーション	・・・P7

【取り組み①】女性の視点を活かした分かりやすい情報発信

【主なご要望】 女性の視点から分かりやすい情報提供を行うべき。女性の声を聴く仕組みの構築を。

【取り組み方針】 女性モニター(社外)の活用や、女性社員の声の反映などを通じて、説明資料等のコンテンツをより分かりやすいものに改良していく。



上記の取り組みに加え、福島の地元の女性が多く参加される会合などを通じて、情報発信コンテンツの改善についてご意見をお伺いし、さらなる改善を図っていく。

(参考) 女性モニター調査結果(その1)

■ 女性モニター（約10名）調査結果の概要

- 提示した資料内容について、“印象”、“理解度”、“不明点”、“改善点の把握”の4つの観点で聞き取り
- 参考資料1『廃炉・汚染水対策の現状と対策について(案)』のようなイメージの資料を対象に実施

<主なコメント>

- 専門家への説明資料のように感じる
- 一部の写真から不快な気分になる(当時を思い出すなど)
- 『廃炉に関する取組』の資料の方は、全く頭に入っていない

など

■ 具体的なケースの紹介（廃炉ロードマップ）

廃炉の主なスケジュール（中長期ロードマップ）					
	第1期		第2期（目標：2021年）		第3期(30～40年後)
	2012	2013	(前)	(中)	
使用済燃料	瓦礫撤去、カバー・クレーンの設置		使用済燃料プール内の燃料取出し/貯蔵		搬出
止水	格納容器調査		補修・止水/格納容器水張り		
燃料デブリ	原子炉建屋内除染		炉内調査・サンプリング 燃料デブリ取出し		
廃止措置	廃止措置シナリオ・廃止措置技術の検討		機器の設計 廃止措置工事		
廃棄物処理	固体廃棄物の安全な処理・処分に必要な研究開発		廃棄体の製造等		

	1号機	2号機	3号機	4号機
瓦礫の撤去	2014年度～	—	使用済燃料プールの瓦礫を撤去中(～2014.6)	済
使用済燃料取出し	2017年度下期～	2017年度下期～	2015年度上期～	取出し中【約3割完了】(2013. 11～2014. 12)
燃料デブリ(溶融燃料)取出し	2020年度上期～	2020年度上期～	2021年度下期～	—

※ 下記の記載スケジュールは最速プラン

廃炉ロードマップのページに関する改善点のまとめ

- * 全体の大枠の説明が必要
- * 色等を駆使し、過去、現在、未来の話をはっきりと分けるべき
- * 過去、現在、未来を整理した上で、「いま」の状況を示すべき
- * 読み解くのが苦手な人もいる「表」を多用しない
- * 専門用語を使う場合は、都度、簡単な説明があると良い

(参考) 女性モニター調査結果(その2)

- 今回の女性モニターの調査結果から得られた、「分かりやすい」資料作成の方向性

■ 「分かりやすい」資料作成に向けた主なポイント

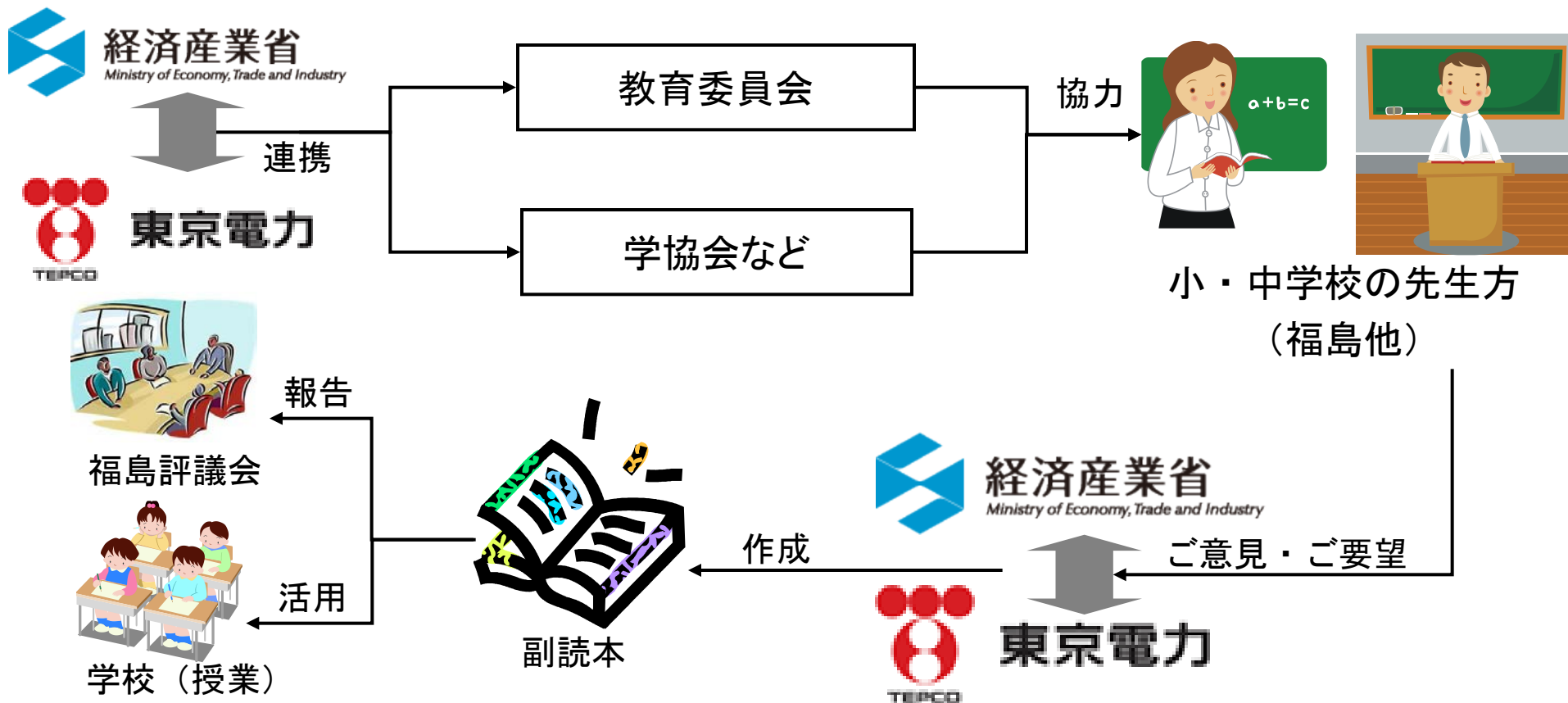
- 資料冒頭で伝えたい事項を整理して記載する
- 資料の構成や大枠での全体の流れを説明し、その後、詳細を説明する
- 難しい熟語は避け、使い慣れた言葉を使用する
- 「イラスト」や「漫画」などで、視覚的に理解できるような工夫をする
- 「文字量が多い」「色やフォント、写真等に統一感がない」などは避ける
- 専門用語を使う場合には、「簡単な説明」を付記する
- イラストなどを使用する場合は、説明する内容との関連付けに気を配る
- 各ページ毎に伝えたいことが分かるよう、“強弱”をつけて記載する

- 今回の女性モニター調査結果も参考にしながら、今後、国と調整・協働により、分かりやすい資料等を作成していく。
- 各委員のご意見や、福島の女性の方々のご意見等も積極的に取り入れ、よりよい成果物の制作、およびそれを使った理解醸成活動を行う。なお、説明資等の見直し・改善にとどまらず、対話の機会を設けて丁寧な説明を心掛ける。

【取り組み②】次世代を担う子どもたちに向けた情報発信

【主なご要望】 中高生にも分かるような情報提供をすべき。子どもたちにも科学の知識の大切さを教えてほしい。

【取り組み方針】 学校の先生方と連携して、授業でも使っていただけるような分かりやすい副読本を製作する。



(参考) 当社は、原子力事故の記憶と記録を残し、社内外に伝えていく社会的責任があり、二度と事故を起こさないとの誓いの下、「福島原子力事故・廃炉資料館(仮称)」の設立を、現在の避難指示区域内を念頭に検討・実施していく。

【取り組み③】事故・トラブル等発生時における迅速・的確な公表

【主なご要望】 事象があったときにすぐにプレス発表を行うべき。

トラブル情報の重要度が判断できるように改善を図るべき。

【取り組み方針】

- 福島第一原子力発電所における事故・トラブル等発生時の迅速・的確な通報連絡および公表対応を目的に、県内自治体とも協議し「通報基準と公表方法」を定め、H25年9月より運用を開始。
- 重要度(区分A[高]～区分E[低])に応じた公表を行う。重要度が高いトラブルは、速やかに公表するとともに休日・夜間を問わず緊急記者会見を実施する。

事故・トラブル等発生時の公表方法、タイミング

区分	考え方	公表方法・タイミング
区分A	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温停止状態の維持に影響を与えるもの ・周辺環境への影響が考えられるもの ・重大な人身災害(大量な放射線被ばくなど) 	報道関係者への一斉メールで公表するとともに、 <u>緊急記者会見</u> で説明。
区分B	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温停止状態の維持に影響を与える可能性があるもの ・周辺環境への影響の可能性が排除できないもの ・社会的に重大な関心があるもの 等 	報道関係者への一斉メールで公表するとともに、 <u>定例会見</u> で説明。必要に応じて臨時会見を実施。
区分C	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所施設運営に軽度な影響を与えるもの ・社会的に大きな関心のあるもの 等 	報道関係者への一斉メールで公表するとともに、 <u>定例会見</u> で説明。
区分D	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所施設運営に軽度な影響を与えるもの ・社会的に関心のあるもの 等 	<u>定例会見</u> で説明。必要に応じて、報道関係者への一斉メールで公表。
区分E	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所施設運営に係る設備のごく軽度な故障 ・計画作業、操作 等 	<u>定例会見</u> で説明。

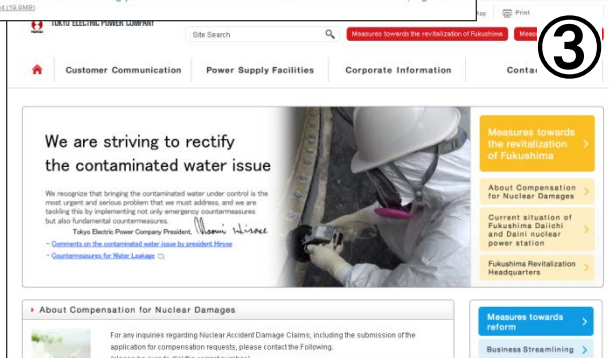
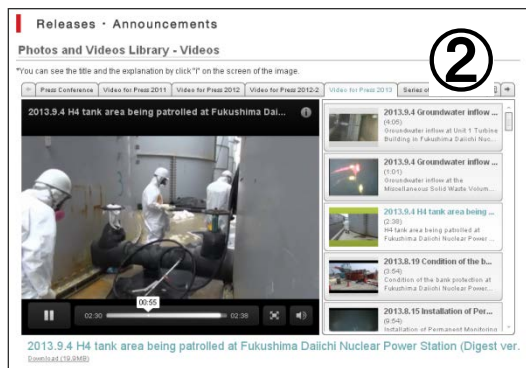
高
↑
重要度
↓
低

※運用実績や社会的関心の状況等をふまえ、適宜必要な見直しを実施。

【主なご要望】 資料の多言語化により国際的に分かりやすい情報提供を行うべき。
海外メディアに取りあげてもらおう工夫をするべき。

【取り組み方針】 海外諸国から関心が寄せられる事項に対して、正しく、タイムリーに発信するべく、以下の様々なアプローチによる情報発信強化・改善を実施中。

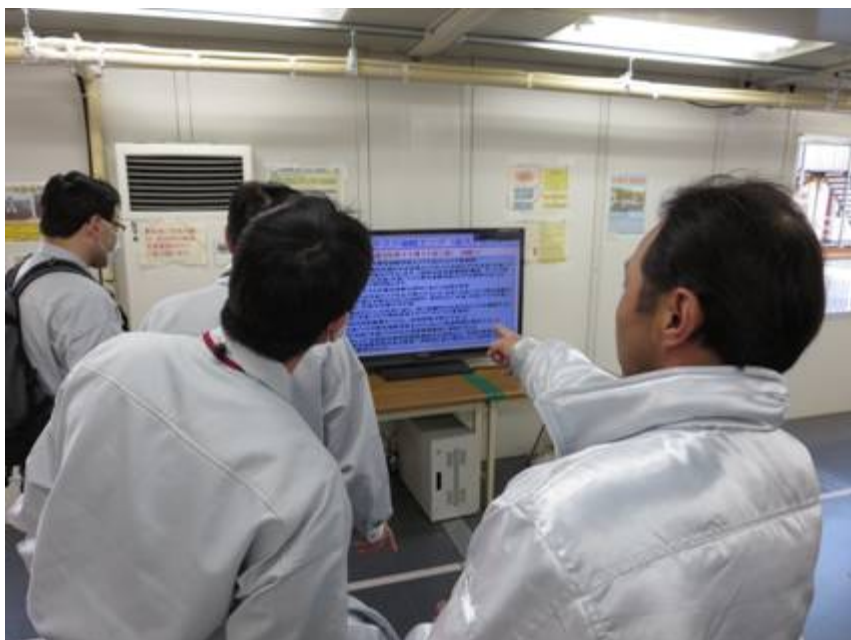
- ① リスクコミュニケーターによる各国大使館への説明
- ② ホームページにてタイムリーな動画配信
- ③ ホームページ上に汚染水対策の専用ページ開設
- ④ ソーシャルネットワーキングサービスでの情報発信、メールマガジン配信



【主なご要望】 作業員から伝わる情報と政府・東電から提供される情報との整合性を図るべき。

【取り組み方針】多くの社員・協力企業作業員の目に触れる場所への電子情報掲示板やポスターの設置等により情報提供を拡充する。また、トラブル等が発生した際は、電子情報掲示板に概要を速やかに掲載し、作業員と情報を共有する。

■ 電子情報掲示板の設置事例（福島第一）



＜入退域管理棟 バス待合所＞

主な取り組み内容

- 電子情報掲示板等で、発電所のトピックスや構内の放射線量マップなどを周知（4/8現在、同提示版は構内に8台）
- 緊急時メッセージ発信機能（津波・地震）も有り

作業員アンケート結果の声を反映

主な改善内容

- 電子情報掲示板やポスター等各ツールの特性に適したコンテンツの改良、および内容の充実。
- 設置・設置箇所の見直し など